

施策マネジメントシート

作成日 平成 28 年 8 月 19 日

施 策	子どもたちの個性を尊重する学校づくり				
施策 主管課	18	氏名	蘆田 俊哉	施策 関係課	教育総務課、芦川支所地域住民課

1. 現状把握 Plan→Do

(1)施策の目的と指標

① 対象 (誰、何を対象にしているのか) *人や自然資源等 ◇児童、生徒	③ 対象指標名称 (対象の大きさを表す指標) 数字は記入しない (単位)
	a 児童・生徒数 人
	b
② 意図 (対象をどういう状態に変えるのか) ◇学力が身につく、学んだことを実生活に生かせるようになる。 ◇しなやかな心と、丈夫な身体が育まれ、生きる力となる。 ◇充実した環境の下で学ぶことにより、人や地域を愛する人間に育つ。	④ 成果指標名称 (意図の達成度の指標) 数字は記入しない (単位)
	d 標準学力検査(NRT)全国平均値達成率(平均達成学級数/受検学級数) %
	e 道徳性意識調査の値(小6) 【平成26年度で終了】 点
	f 新体力テストの合計点の平均値(中2男子) 点
	g 「学校は楽しいと思う」児童の割合(小5) %
⑤ 成果指標設定の考え方 ◇確かな学力を測るものとして「標準学力検査(NRT)全国平均値達成率」 ◇しなやかな心や測るものとして道徳性意識調査の値(小6)(平成26年度で終了) ◇丈夫な体を測るものとして「新体力テスト合計点平均値(中2男子)」 ◇充実した環境のもとで学んでいるかを測るものとして「学校は楽しいと思う」児童生徒の割合(教育白書)	⑥ 成果指標の取得方法 ◇標準学力検査(NRT)全国平均値達成率:学力検査実施結果資料 ◇道徳性意識調査の値(小6):学校教育課資料(平成26年度で終了) ◇新体力テスト合計点の平均値(中2男子):山梨県スポーツ健康課資料 ◇「学校は楽しいと思う」児童生徒の割合:教育白書資料
	h

			23年度 実績、決算	24年度 実績、決算	25年度 実績、決算	26年度 実績、決算	27年度 実績、決算	28年度 実績、見込み	29年度 最終目標	
(2)指標・事業費等の実績推移と目標値										
対象指標	a 児童・生徒数	人	見込み値	6,098	5,965	5,830	5,769	5,494	5,438	5,355
			実績値	6,140	5,921	5,828	5,602	5,404		
	b		見込み値							
			実績値							
	c		見込み値							
実績値										
成果指標	d 標準学力検査(NRT)全国平均値達成率(平均達成学級数/受検学級数)	%	成り行き値	70.0	70.0	60.0	60.0	61.0	61.0	62.0
			目標値	72.0	72.0	62.0	62.0	63.0	63.0	64.0
			実績値	71.4	60.0	67.0	69.0	61.0		
	e 道徳性意識調査の値(小6)【平成26年度で終了】	点	成り行き値		70.0	70.0	70.0	70.0	70.0	70.0
			目標値		80.0	80.5	80.5	81.0	81.0	81.5
			実績値	未実施	80.3	85.3	84.2	—	—	—
	f 新体力テストの合計点の平均値(中2男子)	点	成り行き値	41.5	43.0	43.0	43.0	43.0	43.0	43.0
			目標値	41.7	43.5	43.5	43.6	43.6	43.7	43.7
			実績値	43.2	42.2	43.1	41.9	41.4		
	g 「学校は楽しいと思う」児童の割合(小5)	%	成り行き値	85.0	85.0	85.0	85.0	85.0	85.0	85.0
			目標値	86.0	86.0	91.0	91.0	91.5	91.5	91.5
			実績値	85.4	90.9	85.6	89.3	88.5		
	h	点	成り行き値							
			目標値							
			実績値							
施策コスト	事務事業数		本			42	46	46		
	施策に係る事務事業の コストの合計 (評価外を含み、繰越分を除く)	事業費 (A)		千円	1,067,143	1,070,724	1,906,135	1,876,961	2,087,164	
		うち一般財源 (A')		千円	1,003,756	1,015,096	1,202,636	1,128,795	1,232,594	
		人件費 (B)		千円	95,267	84,263	80,163	82,648	242,824	
		トータルコスト (A+B) (C)		千円	1,162,410	1,154,987	1,986,298	1,959,609	2,329,988	
		うち一財 (A'+B) (C')		千円	1,099,023	1,099,359	1,282,799	1,211,443	1,475,418	

(3) 施策の目標設定の根拠 (水準の理由と前提条件)

<p>●後期基本計画策定に伴い成り行き値、目標値の再設定を行った。</p> <p>◇標準学力検査(NRT)全国平均値達成率:成り行き値は、H24年度実績値を基に25、26年度を設定し、以降、2年間で1ポイントの増とすることで設定。目標値は、H24年度実績値を基に25、26年度を2ポイント増で設定し、以降、成り行き値と同様にH23年度実績値を基に2年間で1ポイントの増とすることで設定。</p> <p>◇道徳性意識調査の値(小6):成り行き値は、全20問に中間指標(どちらともいえない)につけた場合、60点となるため、10点増の70点で設定した。目標値はH24年度実績から2年間で0.5点づつ増とすることで設定。(道徳性意識調査はH24年度から実施。平成27年度以降、道徳は教科化され評価することになった。但し、文部科学省より数値をもって道徳を評価することは不適切であるとされたため、これに準じ道徳性意識調査により道徳性を数値化することは、平成26年度をもって終了する。)</p> <p>◇新体力テストに於ける合計点平均値:成り行き値は、H23年度実績を基に43.0点で据え置いた。目標値は、H23年度実績値を基に2年間で0.1ポイントの増とすることで設定。</p> <p>◇「学校は楽しいと思う」児童生徒の割合:成り行き値は、過去の平均値85.0%を据え置くこととした。目標値は、H24年度実績値を基に25、26年度を91.0%とし、27年度以降は91.5%とした。</p>
--

(4) 施策の役割分担 (住民と行政との役割分担)

<p>ア)住民の役割 (住民・地域・団体・事業所が、自助・共助でやるべきこと)</p> <p>◇保護者や地域は、学校の取組みを理解し、協力する。地域で見守る。</p>	<p>イ)行政の役割 (市・県・国がやるべきこと)</p> <p>◇学校…教育の実施。給食の実施。地域、保護者との連携。</p> <p>◇市・市教委…教員の資質向上、市費負担の講師・職員の配置、教育施設の整備、運営費補助、スクールバスの運営、学校給食の運営、通学路の合同点検、不登校児童等の自立支援。</p> <p>◇県教委…県費教職員の配置、保健衛生の維持・確保。</p>
---	---

(5)環境変化（対象者や根拠法令等は5年前と比べてどう変わったのか？）

◇H19年に一部学区の見直しを行なった。◇H19年に市の指導主事を設置した。◇学習指導要領が改定され、週の授業時間数も増えた。◇H20年に笛吹市学校教育ビジョンを策定。学校評価も導入された。◇H22年に小中学校(18校)に太陽光発電システム設備を設置、全小中学校のトイレ改修。◇H21年度に芦川中学校閉校。◇H22年度に一宮地区の共同調理場設備が完成した。◇H23.3月東日本大震災を契機に、自分の身は自分で守る教育の重要性が叫ばれるようになった。◇H23年一宮中学校耐震大規模改修実施。◇H24年小中学校普通教室にエアコンを設置した。◇H25年石和中学校給食棟建替中。笛吹市学校教育ビジョン改訂◇H26年度から、指導主事2名配置

(6)関係者の意見・要望（住民、議会、対象者、利害関係者等）

◇市民…学校教育に重点的に取り組むべき。教職員の意識改革と、家庭・地域・学校との連携強化が重要。給食に地場産物を使用して欲しい。学校施設の老朽化や時代の要求により改修が必要という意見がある。障害を持った子ども、普通学校で教育してほしい。
◇市民・議会…通学路の安全対策をして欲しいとの要望がある。就学援助費の就学前支給の要望がある。
◇教職員…教員数を増やして欲しいとの要望がある。

2. H27年度の施策の実績 Check

(1)施策の成果実績

① 目標達成度評価（前年度目標値と実績値との比較）	⇒左記の背景として考えられること
<input type="checkbox"/> 目標値より高い実績値だった	◇標準学力検査(NRT)全国平均値達成率は、目標値63.0%に対し、実績値は61.0%であった。(実績値は低かったが、平均学力偏差値に集団の大きさと広がりを加味して考えた場合、91%が全国平均と同程度以上だった。)
<input type="checkbox"/> 目標値どおりの実績値だった	◇新体力テスト総合点平均値(中2男子)は、目標値43.6点に対し、実績値は41.4点と低い数値であった。(体力の向上については、成育過程や運動の経験値などにも左右される。この結果のみに左右されことなく、取り組みを継続させていく必要がある。)
<input checked="" type="checkbox"/> 目標値より低い実績値だった	◇「学校は楽しいと思う」児童(5年生)の割合は、目標値91.0%に対し、実績値88.5%と低い数値であった。(その年度の各学校における様々な要素が影響するので、この年度だけでは成果ははかれない。88.5%という数値は、目標値に比べると低いのが、決して低い値ではないと考える。)
② 時系列比較（過去3カ年の比較）	⇒左記の背景として考えられること
<input type="checkbox"/> 成果がかなり向上した	◇標準学力検査(NRT)全国平均値達成率は、H25年度67.0%、平成26年度69.0%、平成27年度61.0%となっている。(数値としては下がったが、どの学校も学力の定着に努力しており、授業内容の改善や学習規律など日常の学習状況は向上している。)
<input type="checkbox"/> 成果がどちらかと言えば向上した	◇新体力テスト総合点平均値(中2男子)は、H25年度43.1点、H26年度41.9点、H27年度41.4点であった。(どの学校も体力向上に努力はしているが、その学年の特徴により数値の増減はあると考える。)
<input checked="" type="checkbox"/> 成果はほとんど変わらない(横ばい状態)	◇「学校は楽しいと思う」児童生徒の割合は、H25年度85.6%、H26年度89.3%、H27年度88.5%であった。(どの小中学校も楽しい学校づくりに努力している。)
<input type="checkbox"/> 成果がどちらかと言えば低下した	
<input type="checkbox"/> 成果がかなり低下した	
③ 他自治体との成果実績値の比較	⇒左記の背景として考えられること
<input type="checkbox"/> 他自治体と比べてかなり高い成果水準である	◇標準学力検査(NRT)全国平均値達成率は、笛吹市独自のものであり比較できない。
<input type="checkbox"/> 他自治体と比べてどちらかと言えば高い成果水準である	◇新体力テスト総合点平均値(中2男子)は、笛吹市41.4点、山梨県41.8点であった。
<input checked="" type="checkbox"/> 他自治体と比べてほぼ同水準である	◇「学校は楽しいと思う」児童生徒の割合は、笛吹市独自のものであり比較できない。
<input type="checkbox"/> 他自治体と比べてどちらかと言えば低い成果水準である	◇市費負担講師の配置数は34人で、同規模市と同様である。講師一人当たりの児童・生徒数は159人であり、きめ細やかな指導が行われている。(県内でも先進的な導入であった。現在は県内他市も導入が進んでいる。)
<input type="checkbox"/> 他自治体と比べてかなり低い成果水準である	●笛吹市小中学校普通教室にエアコンが設置されており、県内でも高い水準である。
自治体名⇒	●太陽光発電設置率は94.7%(18校/19校)と高い設置率である。
山梨県内市町村	●教育委員会に指導主事2名配置。

(2)施策のコスト実績（対象1単位当たり又は住民一人当たりのコスト）

対象指標名称⇒ 児童生徒数	(単位)	25 年度	26 年度	27 年度	効率性評価
*対象指標実績値 (D) (1枚目の a)		5,828	5,602	5,404	◇平成27年度は、小中学校施設計画的改修事業及び石和中学校校舎等改築事業等が増となったが、教育総務事務及び教育委員会施設整備総務事務の減により、事業費は減少している。
*対象1単位当たり事業費 (1枚目 A / D)	円	327,065	335,052	386,226	◇人件費率H26年度4.22%に対して、H27年度10.42%から効率は低下している。
*対象1単位当たり人件費 (1枚目 B / D)	円	13,755	14,753	44,934	
*対象1単位当たりトータルコスト (1枚目 C / D)	円	340,820	349,805	431,160	

(3)施策の現状と課題の総括

◇H26年度に改訂した笛吹市学校教育ビジョンの具現化に取り組んでいる。◇教育環境の充実としては、H21年度から学校ICT環境整備事業に取り組み、H23年度をもって情報通信技術整備は終了。施設に関しては、H22年度に一宮給食センターが完成し、H23年度に一宮中学校の耐震大規模改修、H25年度から石和中学校の給食棟建替え、芦川小学校の体育館改築に取り組んでいる。H28年度より、石和地区給食センターの建設準備に着手する。◇H24年度から保護者への不審者情報等の提供を行う学校安全安心メールを構築・運用し、活用している。◇小学校及び中学校の市費負担教職員配置事業において、教職員の配置を更に進め、学校教育に対する支援を図ってきた。また、小中学校の図書館に市独自に学校図書館司書を配置している。⇒今後も、児童生徒一人一人に応じた教育ができるように、さらなる教育環境の充実を図る必要がある。◇ふえふき教育相談室など教育相談の充実により、不登校児童・生徒へのきめ細やかな対応を行っている。◇引き続き通学路の安全確保、施設の老朽化や時代の要望に伴う整備に取り組む必要がある。◇笛吹市いじめ防止基本方針をもとに、いじめ防止への対応を行っている。◇道徳性意識調査は道徳が教科化され、各校において評価を行うことから平成26年度を持って終了した。◇老朽化が進む学校施設の修繕と計画的な改修が求められている。◇学校施設の構造物としての耐震化は完了しているが、窓ガラスや照明等非構造物の耐震化を進める必要がある。

3.後期基本計画の取り組み方針(29年度) Action

(1)現状と課題から導き出した次年度の取り組み方針

◇笛吹市学校教育ビジョンを教育指針とし、知・徳・体のバランスのとれた児童・生徒の育成を目指す。◇不登校や障がいのある児童・生徒も含め、個性や可能性を最大限に発揮できるように、相談や指導をきめ細かく行うとともに、関係機関と連携し教育相談事業の充実を図る。◇指導主事・講師・学校サポーター・英語指導助手等の市費負担教職員を効果的に配置するとともに、教職員の研修体制の充実を図り、次代を担う子どもを育むための教員の指導力の向上を図る。◇教育用パソコンの入れ替えを年次計画で行い、学校のICT環境整備に努める。◇安全で安心して学べる教育環境を充実させるために、保護者や地域のボランティア等と連携し、通学路の安全確保やメールの一斉送信も含めた安全防犯対策に努める。◇石和地区給食センターの建設に向けて、建設候補地の選定や調理場内厨房レイアウトのプロポーザルを実施する。

◇計画的な改修計画を策定し、緊急度の高い修繕とあわせ取り組みを進める。◇避難所として利用度が高い体育館から非構造物材の耐震化を実施する。

(2)施策の対象を、目標に導くための次年度の手段

◇各学校で標準学力検査NRTや全国学力学習状況調査の結果を分析し、校長のリーダーシップのもと学力向上に取り組む。

◇道徳の実践力を育てるために、引き続き「あいさつ 聞き方 言葉遣い」運動を展開していく。

◇体育授業の中で「レッツ サークット」を取り入れたり、日常の体力づくりに引き続き取り組む。

◇児童生徒に、日々の学校生活の中で自己肯定感や自己満足感もてるような様々な活動を取り入れていく。

◇緊急度の高い修繕から順次実施し、改修計画を検討する。

◇小中学校4校の体育館の非構造物材の耐震化を実施する。